

春季積菜が厳かに開催！

孔子の遺徳を偲ぶ春季積菜が4月18日、多久聖廟にて行われました。
市職員が扮する伶人が奏でる雅楽の中で、献官の横尾市長や市議会議長、教育長、中学校校長などの祭官が孔子らに甘酒、餅などのお供え物を奉げました。



▲聖廟内で行われた積菜の式典



▲優美な積菜の舞



▲参列生徒の唱歌



▲多久市文化連盟茶道会主催のお呈茶（東原席舎）

式典後、聖廟境内では西溪中、多久高の生徒による『積菜の舞』、揚琴演奏家の趙勇さんによる童謡の演奏が披露され、昔懐かしい童謡に会場は和やかな雰囲気になりました。
続いて、中部小1～5年生と多久町老人クラブが『参列

生徒の唱歌』を合唱。仰高門前では、鮮やかな衣装の中部小6年生が『腰鼓』を披露しました。
今回の式典には、李天然中国駐福岡総領事と李文亮同長崎総領事もお見えになり、春の積菜を堪能されていました。

第2回ロボットコンテスト大会

最優秀賞は中央中1号

志田林三郎博士顕彰会は3月25日、市内の小学5年生から中学3年生を対象に第2回ロボットコンテスト大会を東部中学校で行いました。

郷土の偉人「志田博士」の業績を顕彰するとともに、明日の日本を担う子どもたちの科学技術への関心を高め、ものづくりの楽しさや喜びを知ってもらおうと開催。オフロード多久2011「被災地に救援物資を急送せよ」が今回のミッションでした。

事前に2回のロボット教室で製作を学び参加した大会は、部門別に17チームが熱戦を繰りひろげました。大会結果は下記のとおりです。

- ◆初級部門優勝 チーム名「古風な人々」
製作者 田久保昌也さん・黒岩和也さん
松瀬勝朗さん（東部中）
- ◆中級部門優勝 チーム名「中央中4号」
製作者 松瀬駿介さん・新郷陸さん（中央中）
- ◆上級部門優勝・会長賞（最優秀賞）
チーム名「中央中1号」
製作者 中谷瞬さん・武富竜也さん（中央中）
- ◆志田林三郎博士賞（アイデア賞）
製作者 川口洋志さん（北部小）



◀昨年の大会より技術力もアップした競技会で、小学生も中学生チームに果敢に挑戦。

市長コラム

温|故|創|新

Message for citizen

被災地がれき広域処理の難しさ

市長 横尾俊彦

震災から一年を経て復興が待たれています。被災地では「がれき処理」問題があります。首相からも広域処理協力要請が出ました。放射性関連物質汚染の懸念がないといわれる岩手・宮城両県のがれきが対象です。被災者と被災地に寄り添い、復興を支えるには可能な範囲の協力が重要です。

基本的に必要性は理解できませんが、例えば、現地に近く政府が処理施設を至急建設すれば、過大な運搬費も要らず、雇用も生み、賢明と思われるます。現在計画中の仮設予定27炉で処理すれば平成27年夏に終了見込みですが、政府は26年春をめざすため広域処理要請になったようです。

本市も少しでも協力をとの思いもありますが、現実的課題もあり、現状では即実行が困難です。

現施設の処理余力は1日2～3トン。焼却灰等の最終処分は佐賀県内の施設と福岡県の精錬業者で行っており、両者の理解と協力が不可欠です。

そこで「被災地がれき焼却灰は受け入れない」となると広域処理分の最終処分場確保ができず処理協力は困難です。もちろん処理施設（清掃センタ―）地元及び市民の理解も必須です。日常のゴミ処理は施設地元の深い理解の上に立っていることも忘れてはなりません。放射線関係安全確保も重要です。例えばセシウムでは、国の基準が2通り

（原子炉等規制法の基準100ベクレル/kg、放射性物質汚染対処特措法の基準8000ベクレル/kg）で、先日の説明会では厳格化を求める意見も出ました。県内市町も協力意向でも、地域理解、最終処分場確保等の課題があるようです。協力したい、でも困難、が率直な現状です。